木田市長の

どーんとコミュニケーション

Vol.107

「若い人達に期待して」

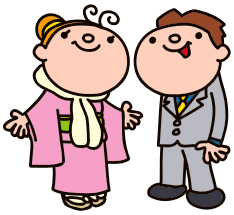
時代の変化と共に人間の考え方や生き方がどんどん変わっていくことに気付かされます。私達が若い頃は、異性に対する興味が大いにありましたし、いずれ結婚して家庭を持ち、子供達が生まれてくるのは当然であると考えていました。しかし最近では草食系男子という言葉が出来てくるように、あまり異性に興味を持たない、家庭を持って子孫を残すより自分自身が気ままに暮らす、社会のことに関心がないなどといった風潮があらわれてきました。

この世に誕生させてもらったのだから次の世代に引き継いでゆくべきだなどと考えるのは、私が年をとったせいだと言われるかもしれませんね。

今年の成人式の挨拶でも言わせてもらいましたが、いま日本では若い人達の投票率が下がっています。ということは政治に関心がないのでしょう。年末に行われた衆議院議員選挙では、20代の人の投票率は約30％でした。一方、60才以上の人の投票率は70％を超えています。最近では、期日前投票の制度も充実して、簡単に投票できるようになっています。忙しくて投票に行けないという理由はありません。新成人に対して、「日本の政治は私達高齢者に牛耳られています。くやしくはありませんか」と、ちょっと過激に言ってしまいました。

香港では、香港のリーダーを選ぶ選挙が公平でなく、自分達の投票権が侵害されるという理由で、学生達が2か月にわたってストライキをしました。場合によっては、ケガをしたり、命を落とす危険さえ顧みず、勇気を出しての行動だったのでしょう。私が大学生の頃、私の一年後輩が東大の安田講堂に立てこもって機動隊に逮捕されたことがありました。飛んでくる催涙弾に当たれば大ケガをするらしく、とても怖かったと言っていましたが、当時の日本でも若者が今の香港のように燃えていたということでしょう。それが今では投票にも行かないというのですから何をか言わんやです。

考え方によっては、投票に行かないということは、他人の決めた方向を信頼していると言えなくもありません。しかしそれよりも、無関心あるいはどうでも良いと考えている人が多いような気がしてなりません。若い人達が真剣に、この国の将来を考え、自分達の投票行為によって行き先を決め、子孫を残して社会を力強く存続させて欲しいと願うものです。



山下憲一の

東京奮闘記！

Vol.11

市では、平成24年度から離島振興や首都圏での観光、企業誘致のPRを行うため、東京へ駐在員を派遣しています。

企画財政課企画経営室 ☎(25)1101

都会の小学生が答志島へ

東京での業務では、テレビ局や大学などから鳥羽への取材、視察のオファーをいただき、先方の企画に沿うように行程を組んだり、取材のアポイントを取ったりと、依頼主や地元のかたと調整することがあります。地元のかたには無理をお願いすることもあるのですが、快く引き受けてくださり感謝しています。

1月17日・18日には、東京都大田区立松仙小学校の児童の答志島取材に同行しました。

この事業は、東京のNPO法人「海のくに・日本」が主催するもので、都市部のこどもたちが離島学習を通じて、海と深く関わり生活している島の人びとの暮らしぶりを知るのが目的です。昨年11月には、木田市長と同校を訪問し、鳥羽の島々についての授業を行い、授業の感想文などで選考された5人が答志島を訪れました。滞在中は、日本で唯一答志島に残る「寝屋子制度」について学ぶため、実際に寝屋親のお宅を訪問して取材しました。また島の旅社推進協議会のガイドで島内を散策し、島の文化や歴史、漁業や海女漁などの島の産業についても学びました。島のみなさんの協力を得て、滞在した2日間で多くのことを学びました。この取材の成果は3月に都内で発表されます。

これらの取材、視察が、少しでも鳥羽への誘客・集客につながればと思います。

寝屋親の話を聴く子どもたち